

第97回全国高校野球選手権大会大阪大会決勝が終わり「よっしゃー！」と叫んだ後、人目もはばからず大号泣したのは、一癖も二癖もあるヤンチャな生徒たちと共に激戦の大阪大会を勝ち抜き、春夏通じての甲子園初出場を決めた大阪偕星学園の野球部を率いる山本監督だ。4年前に彼が就任した頃はまさに“スクールウォーズ状態”で、とにかく苦労したらしい。中学時代は茶髪の子や、練習をサボる人などなど。遠征時にパーキングエリアで休憩すると、トイレにまで監視についていかなければならなかったため、バスをどこにも止めず一気に移動する“弾丸遠征”が野球部のルールになったほど。しかし、監督の指導のもと生徒たちは猛特訓に明け暮れ、時には深夜1時になるまで基本練習を繰り返した。

実は、山本監督は現在も寮で生徒たちと一緒に生活している。寮の規則を破った選手には自身の7畳の部屋で共に寝ることを義務づけるそう。多い時は5人で雑魚寝することにもなったが、「お前らも嫌やろうけど俺も嫌や。規則は守れよ」と語りかけ、毎朝4時に起きて部員の弁当を作り、時にはカレーやから揚げを振舞い、家族のように愛情を注いできたという。今どき珍しい“スポ根ドラマ”のような熱血監督たちを見て、イエスと、彼が選んだ12人の弟子たちを思い出した。

「イエスは十二弟子を任命された。そして、シモンにはペテロという名をつけ、ゼバダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、このふたりにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。次に、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党员シモン、イスカリオテ・ユダ。このユダが、イエスを裏切ったのである。」

マルコの福音書 3章 16-19 節、

とあるが、その内容が実に面白い。筆頭弟子のシモンはフツのユダヤ人の名前だが、石頭だったからかペテロ（石）というあだ名を貰い、ヤコブたちは気性が激しかったのでカミナリの子などと呼ばれ、他にも、今で言うアルカイダのような過激宗教右派のシモンや、企業舎弟の如きマタイ、さらには脱落したユダまでもが含まれており、優等生には程遠い。おまけに彼らはイエスが十字架にかかった際には逃げてしまった。イエスはそんな彼らにとことん愛情を注ぎ、時には厳しく指導したのであった。頼りない弟子たちであったが、殺されたのち3日後によみがえったイエスを見、さらに彼が送った聖霊によって力を受けた弟子たちは後に大活躍し、ある者たちは2000年後の

今、「聖人」などと呼ばれている。クリスチャンとは「いい人間の集まり」なのではない。イエスが我々の罪のために十字架にかけられた後、復活して昇天し、今日も聖霊を通して頼りない我々を熱血指導して下さることを信じる人たちのことである。

2015-8-23

